

松原市教育振興基本計画 (後期計画)

素案【第1章～第3章】

第1章 計画の策定にあたって

1 策定の趣旨

人生100年時代の到来や人工知能（AI）やビッグデータの活用などの技術革新の急速な進展、止まらない人口減少や高齢化、また経済状況の変化とともに、価値観やライフスタイルの多様化、地域コミュニティの希薄化など文化・人間関係のあり方も大きな転換期を迎えています。このような時代を豊かに生き、未来を開拓する多様な人材を育成するためには、教育の果たす役割はますます大きくなっています。

このような中、国は平成30年6月、「第3期教育振興基本計画」を閣議決定しました。この計画では、第2期教育振興基本計画の「自立」「協働」「創造」の方向性を継承し、その実現のため、生涯学習社会の構築をめざすという理念を引き継ぎながら、2030年以降の社会を見据えた教育施策のあり方を示しています。

この国の計画では教育施策の重点事項として、「超スマート社会（Society5.0）」において「人生100年時代」を豊かに生きていくための、若年期の教育、生涯にわたる学習や能力向上が必要であり、誰もが人間ならではの感性や創造性を発揮し自らの「可能性」を最大化していくこと、そして誰もが身につけた力を生かしてそれぞれの夢に向かって志を立てて頑張ることができる「チャンス」を最大化していくことを今後の教育政策の中心に据えて取り組むとしています。

また、大阪府においても、平成25年に「大阪府教育振興基本計画」が策定されており、その目標の実現に向けて、実施すべき具体的な取組みをまとめた「後期事業計画～未来を拓く教育をめざして～」が平成30年に策定されました。

本市では、平成28年5月、教育に関する施策の根本となる方針を定めた「松原市教育大綱」を策定し、この教育大綱を具体化していくために必要な計画として、平成28年度から7年間で計画期間とする「松原市教育振興基本計画」を策定しました。「未来を拓く自立心を育む人づくり」を基本理念に掲げたこの計画に基づき、各施策、事業などを総合的かつ計画的に推進してきました。

今回、前期計画期間が平成30年度末で終了するにあたり、就学前・学校教育、また社会教育を通じて、次世代の人材育成をさらに進めていくため、平成31年度からの4年間で計画期間とする後期計画を策定します。

なお、策定に際しては、前期計画の方向性を継承しながら、評価と検証を行い、市民ニーズなどを把握した上で、松原市第5次総合計画、国・府の教育振興基本計画、社会・経済情勢などの変化を踏まえ、策定していきます。

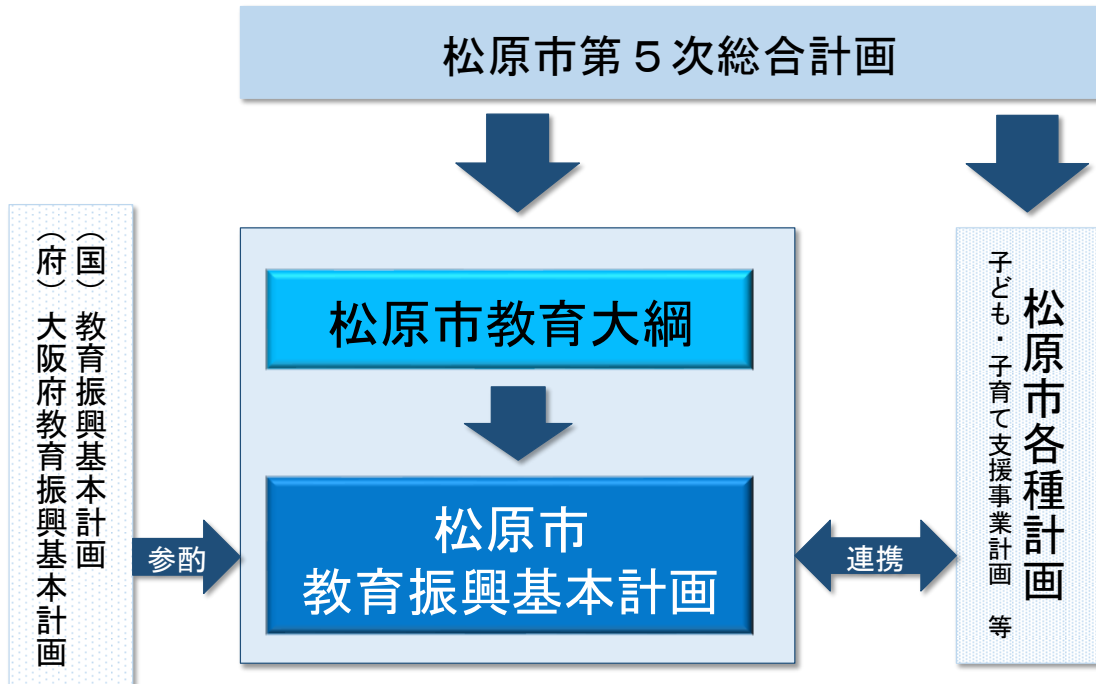
2 計画の位置づけ

松原市教育振興基本計画は、教育基本法第17条第2項の規定に基づき、「地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置づけるものです。

また、松原市第5次総合計画を上位計画とし、松原市教育大綱を踏まえた計画とするとともに、各関連計画との整合性を図るものとし（図表1）。

計画対象範囲としては、「目指す子ども像」を実現するための子どもの教育と、「目指す市民像」を実現する社会教育を対象とします。

【図表1】 計画の位置づけ



3 計画の期間

松原市教育振興基本計画は、平成28年度を初年度に平成34年度を目標年次とする7年間を計画期間としています。策定から3年が経過し、前期計画の計画期間が終了するに伴い、事業の進捗状況や国の動向、社会情勢などの変化を踏まえて、平成31年度から平成34年度までを計画期間とする後期計画（以下、「本計画」という。）を策定するものとし（図表2）。

【図表2】 計画の期間

	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
松原市第5次総合計画	[Solid blue arrow from H28 to H38]										
松原市教育大綱	[Dashed blue arrow from H28 to H30]										
松原教育振興基本計画	前期計画			後期計画				[Dashed blue arrow from H35 to H38]			

1 基本理念

未来を拓く自立心を育む 人づくり

前期計画では、「未来を拓く自立心を育む人づくり」を基本理念とし、取組みを進めてきました。

本計画でもその基本理念を引き継ぎ、就学前教育、そして学校教育を通じて、次世代の人材を育成します。また、次の世代を育む親の世代にも多様な学びの機会の提供や支援を行うとともに、地域の教育力の向上を図ります。人権学習などの多様な学習機会の提供と、それらに参加しやすい環境づくりを推進することにより、自立心を育むことをとおして、まちづくりへの参画を担う人材育成につなげていきます。

2 基本的な方針 ～松原市教育大綱より～

基本理念を実現するため、松原市教育大綱をもとに前期計画で設定しました「未来を拓く人づくり」、「自立心を育む人づくり」という2つの「人づくり」の分野とその中での「目指す子ども像」、「目指す市民像」、及び「基本的な方針」は計画の基本的な方向性を示すものとして、後期計画でも引き継ぐこととします。ただし、方針の説明については、事業の進捗状況などを踏まえ若干の修正を行いました。

【未来を拓く人づくり ～子どもの教育～】

目指す子ども像

- 自分から挨拶できる等、豊かな人間関係をつくれる子ども
- 運動や学習、何事にも意欲的に取り組む子ども
- 自分と家族、他者(ひと)を大切にできる、思いやりのある子ども
- 将来への夢を持ち、地道に努力を重ねる子ども
- 故郷まつばらを誇れる子ども

基本的な方針

(1)「確かな学力」の向上と「生きる力」の育み

(2)安心・安全で魅力ある学校園づくりの推進

(3)子どもたちを健全に育てる地域コミュニティの形成

(1)「確かな学力」の向上と「生きる力」の育み

基礎的知識・技能の修得とともに、それらを活用した思考力・判断力・表現力といった「確かな学力」を育むため、学校園全体で組織的・計画的にさまざまな学力向上の方策に取り組みます。また、家庭学習や基本的生活習慣の確立に向け、家庭への啓発を図ります。

社会の一員として生きていくための規律・規範の確立と道徳教育や国際交流などをおとした豊かな人間性の育成に努め、全ての子どもの人権が尊重され、きめ細やかな指導・支援ができる「ともに学び、ともに育つ」学校園づくりを進めます。

(2) 安心・安全で魅力ある学校園づくりの推進

中学校区を基盤とした学校園・家庭・地域の連携による総合的な教育活動と給食を活用した食育の取組みやすべての校区でのインターナショナルセーフスクールの認証を目指すなど安心・安全・健康の取組みを推進し、積極的な情報発信を行います。

服務規律の徹底と研修・指導体制を充実させるとともに、教職員全員の指導力・対応力・処理力などの資質向上により、学校園の組織力を向上させます。

(3) 子どもたちを健全に育てる地域コミュニティの形成

学校園などと地域住民との協働により、地域の活性化やネットワーク化を進め、地域社会の中で子どもを育て、虐待などを見逃さない地域コミュニティの充実を図ります。

家庭や地域において、子どもや青少年が健康で安心して活動できるよう、地域が一体となっ
て行うボランティア活動や文化・スポーツ活動などを積極的に支援します。



【自立心を育む人づくり ～社会教育～】

目指す市民像

- 心豊かで、健康で明るく生きがいをもつ人
- 生涯にわたり、自ら学ぶ人
- 自立心を持ち、まちづくりを考える人
- 故郷まつばらを愛する人

基本的な方針

- (1)協働によるまちづくりの推進
- (2)生涯を通じた学びやスポーツを支援する環境づくり
- (3)文化財の保護と活用をとおして、郷土への愛着と理解を深める

(1) 協働によるまちづくりの推進

安心・安全の世界基準である『セーフコミュニティ』の理念のもと、行政や医療機関、自治会組織をはじめとした市民など多くの主体の協働により、人と人とのつながりを大切にしたい住みよい健やかなまちづくりをさらに進めます。

(2) 生涯を通じた学びやスポーツを支援する環境づくり

全ての市民が、心豊かで、健康で明るく生きがいのある充実した生活を送るため、市民ニーズや人権などに配慮した生涯学習やスポーツの機会や場を提供するとともに、学んだことを社会に還元できる環境を整えていきます。

市民の学びたい、知りたい、交流したい、社会に働きかけたいなどの多様化するニーズに応える智のネットワークの形成を図り、図書館、公民館などが有効に機能する「智の拠点」づくりを進め、教育と文化の発展に寄与します。

(3) 文化財の保護と活用をとおして、郷土への愛着と理解を深める

文化財を後世に伝えることは、地域文化の発展やまちづくりを進める上で重要であるため、文化財の保護・保存に努め、文化財に親しむ機会の充実や文化財愛護意識の啓発など郷土への愛着と理解を深めます。

1 学校園・家庭・地域の状況

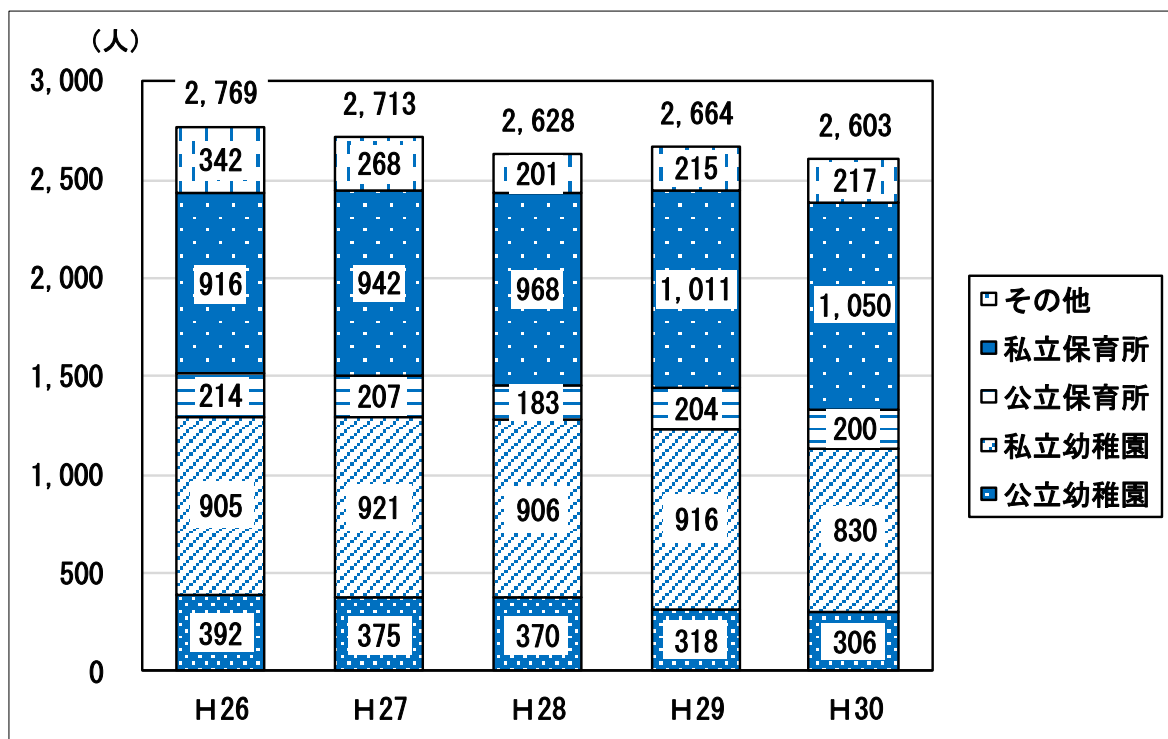
(1) 幼稚園・保育所

①園児数

幼稚園園児数は、平成26年の1,297人から平成30年の1,136人に減少しています。私立、公立ともに園児数が減少しています。

保育所利用児童数は、平成26年の1,130人から平成30年の1,250人に増加しています。公立保育所利用児童数については、毎年の増減がみられます。一方で、私立保育所利用児童数については、年々増加しており、平成26年の916人から平成30年の1,050人に増加しています(図表3)。

【図表3】3～5歳児の就園状況の推移



注：各年5月1日現在
 ※私立保育所は認定こども園を含む
 (1号認定の児童については私立幼稚園に含む)

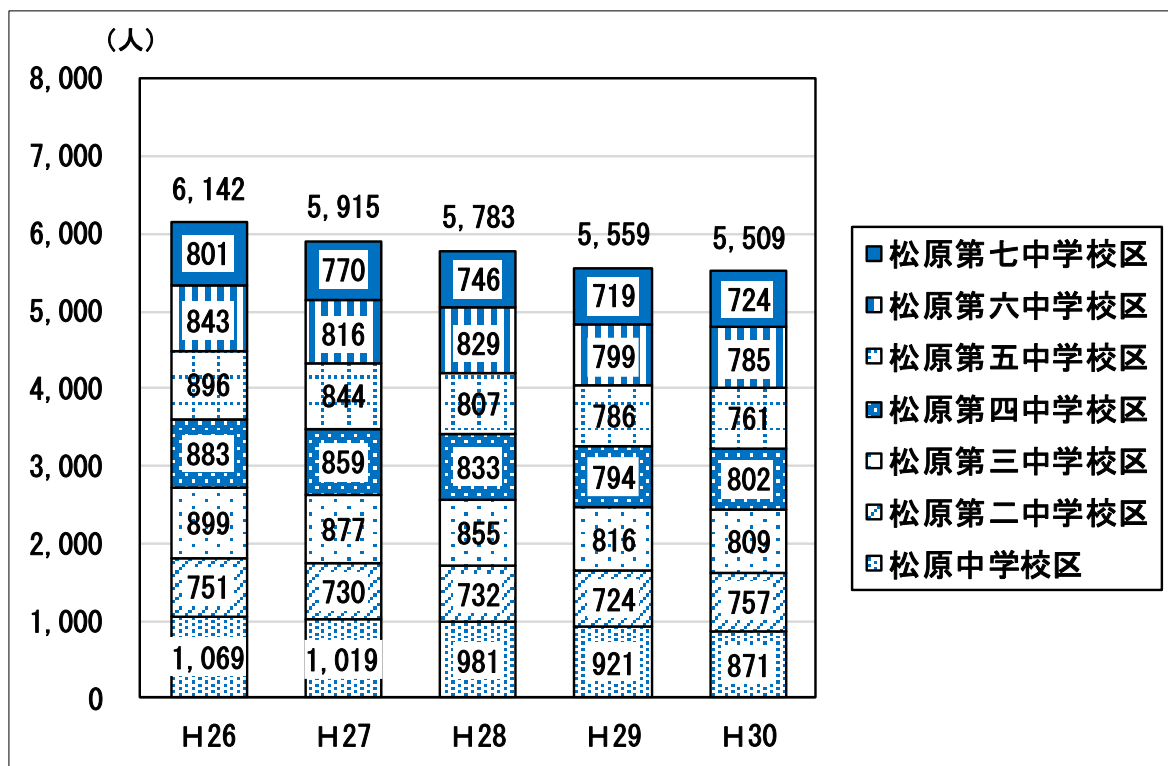
(2) 小・中学校

①小学校児童数

小学校児童数は、平成26年の6,142人から平成30年の5,509人に減少しています。

中学校区別にみると、平成26年から平成30年にかけて、松原第二中学校区でのみ児童数が増加（6人増）しています。その他の中学校区では、児童数が減少しており、減少幅が最も大きい中学校区は、松原中学校区（198人減少）となっています（図表4・5）。

【図表4】小学校児童数の推移（中学校区別）



資料：教育委員会教職員課（各年5月1日現在）

【図表5】小学校児童数の推移（小学校別）

校区	学校・園別	平成26年			平成27年			平成28年			平成29年			平成30年							
		学級数	児童数		合計	学級数	児童数		合計	学級数	児童数		合計	学級数	児童数		合計				
			男	女		男	女		男	女		男	女		男	女					
松中	松原小学校	22	293	248	541	23	290	237	527	21	283	230	513	21	277	213	490	19	257	205	462
	松原西小学校	8	105	85	190	9	103	77	180	9	103	76	179	8	90	68	158	8	86	70	156
	河合小学校	16	184	154	338	16	169	143	312	15	151	138	289	14	144	129	273	12	133	120	253
二中	天美南小学校	19	222	222	444	19	225	220	445	19	213	225	438	17	214	221	435	18	227	216	443
	天美北小学校	14	143	164	307	13	130	155	285	13	145	149	294	13	143	146	289	15	165	149	314
三中	布忍小学校	18	214	180	394	18	202	191	393	17	205	187	392	16	207	174	381	18	204	176	380
	中央小学校	21	254	251	505	19	238	246	484	18	227	236	463	18	220	215	435	18	208	221	429
四中	松原北小学校	25	280	281	561	24	276	281	557	24	275	261	536	23	260	234	494	21	261	233	494
	三宅小学校	16	156	166	322	16	156	146	302	16	160	137	297	16	158	142	300	17	164	144	308
五中	天美小学校	16	200	214	414	15	197	194	391	14	192	179	371	15	190	168	358	15	189	143	332
	天美西小学校	17	241	241	482	16	232	221	453	15	217	219	436	15	218	210	428	16	212	217	429
六中	松原南小学校	19	245	227	472	19	236	226	462	20	253	229	482	18	239	222	461	19	230	222	452
	松原東小学校	15	187	184	371	16	178	176	354	16	174	173	347	16	167	171	338	16	164	169	333
七中	恵我小学校	20	254	245	499	20	254	225	479	18	248	205	453	17	238	207	445	16	231	213	444
	恵我南小学校	15	144	158	302	14	136	155	291	13	131	162	293	12	127	147	274	11	130	150	280
小学校計		261	3,122	3,020	6,142	257	3,022	2,893	5,915	248	2,977	2,806	5,783	239	2,892	2,667	5,559	239	2,861	2,648	5,509

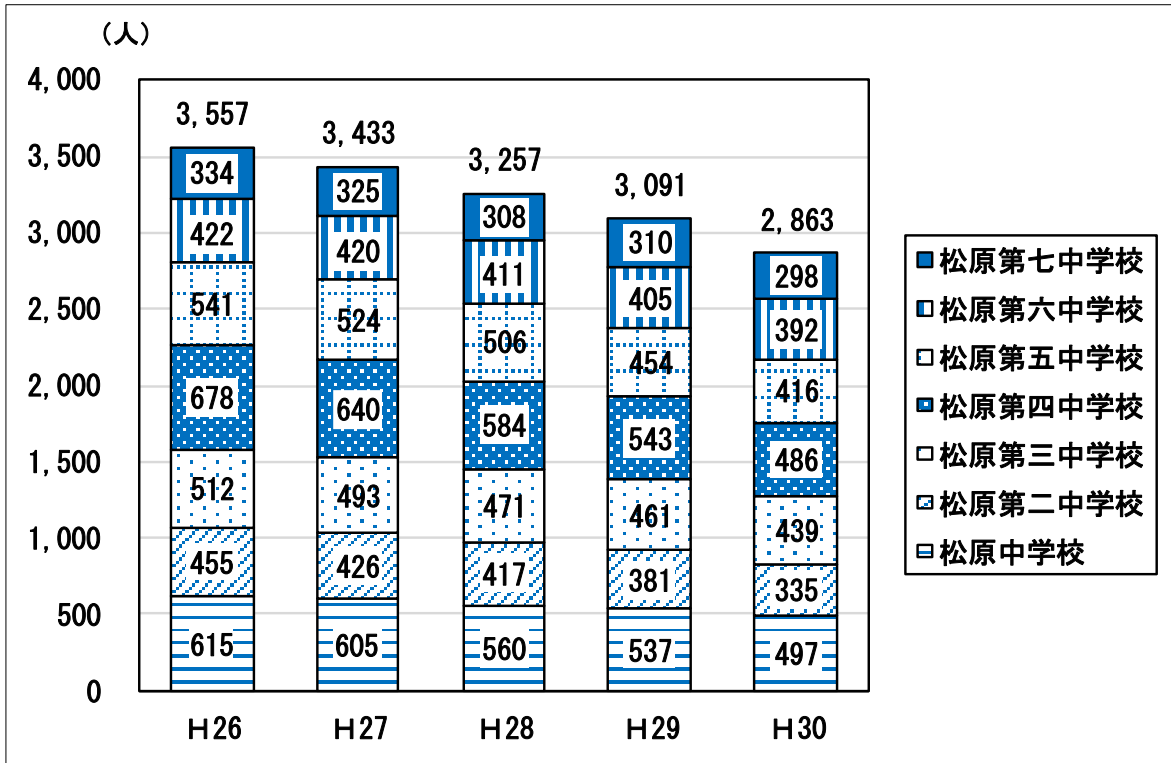
資料：教育委員会教職員課（各年5月1日現在）

②中学校生徒数

中学校生徒数は、平成26年の3,557人から平成30年の2,863人に減少しています。

中学校別にみると、平成26年から平成30年にかけて、すべての中学校で生徒数が減少しています。生徒数の減少幅が最も大きい中学校は、松原第四中学校（192人減少）、減少幅が最も小さい中学校は松原第六中学校（30人減少）となっています(図表6・7)。

【図表6】中学校生徒数の推移



資料：教育委員会教職員課、市内各学校・園（各年5月1日現在）

【図表7】中学校生徒数の推移（中学校別）

学校・園別	平成26年				平成27年				平成28年				平成29年				平成30年			
	学級数	生徒数		合計	学級数	生徒数		合計	学級数	生徒数		合計	学級数	生徒数		合計	学級数	生徒数		合計
		男	女			男	女			男	女			男	女			男	女	
松原中学校	20	325	290	615	21	316	289	605	19	299	261	560	18	286	251	537	18	258	239	497
松原第二中学校	15	200	255	455	15	203	223	426	14	218	199	417	13	201	180	381	12	170	165	335
松原第三中学校	18	258	254	512	17	257	236	493	16	254	217	471	16	245	216	461	16	228	211	439
松原第四中学校	21	326	352	678	21	306	334	640	20	270	314	584	18	258	285	543	19	241	245	486
松原第五中学校	19	288	253	541	18	270	254	524	17	248	258	506	15	214	240	454	14	199	217	416
松原第六中学校	14	203	219	422	15	218	202	420	14	208	203	411	16	211	194	405	17	197	195	392
松原第七中学校	12	174	160	334	13	181	144	325	12	171	137	308	12	162	148	310	11	153	145	298
中学校計	119	1,774	1,783	3,557	120	1,751	1,682	3,433	112	1,668	1,589	3,257	108	1,577	1,514	3,091	107	1,446	1,417	2,863

資料：教育委員会教職員課、市内各学校・園（各年5月1日現在）

(3) 小・中学校の学力・学習の状況

(全国学力・学習状況調査結果から)

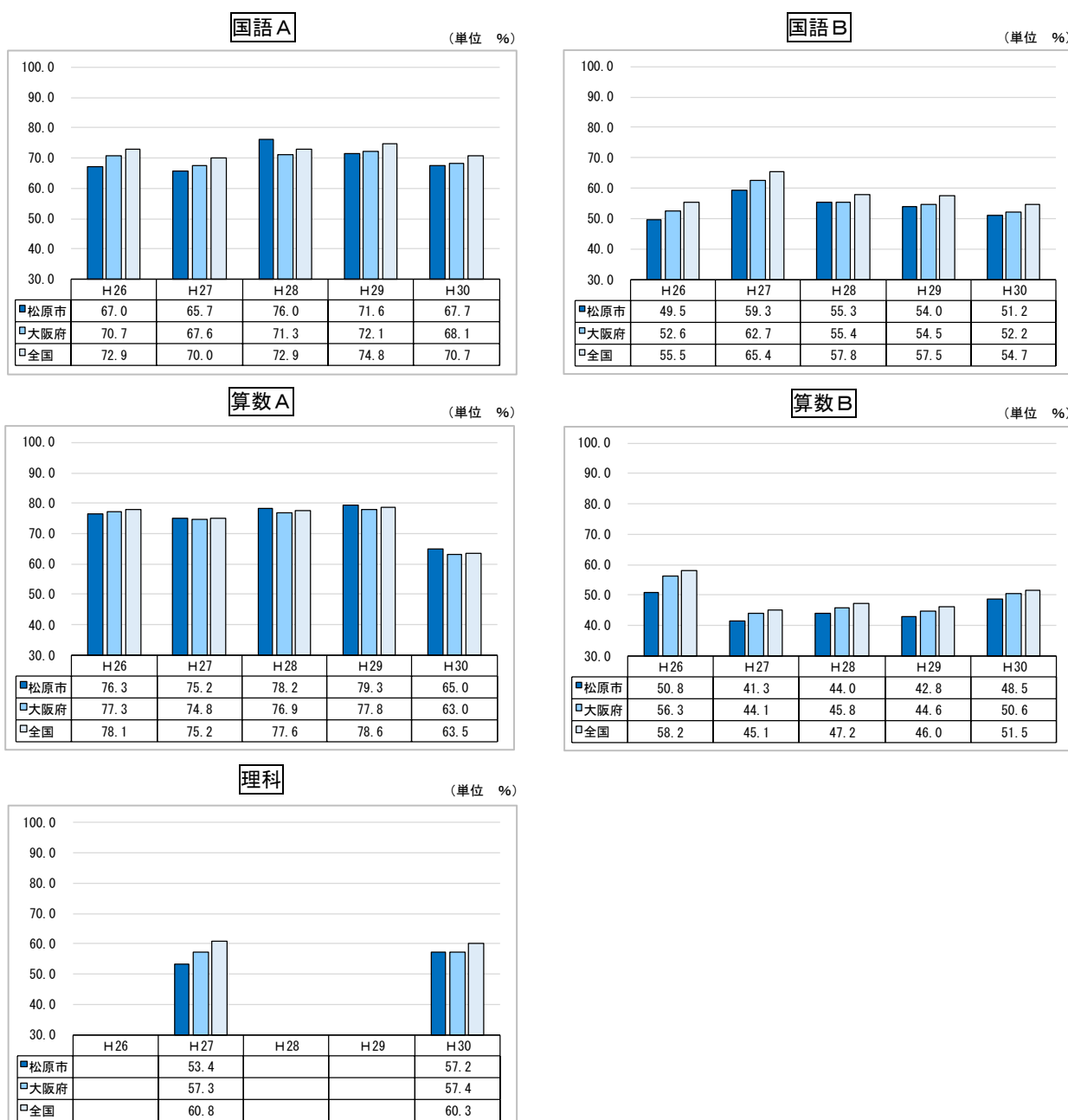
①小学生（6年生）の正答率

主に基礎・基本的な知識を問われるA問題において、国語Aでは、平成29年度以降、全国、大阪府の平均よりやや下回る水準となっていますが、平成30年度では平成26年度と比べて、下記で示す通り、その差は縮小しています。算数Aでは、平成27年度以降、全国平均と同程度か上回る結果となっています。

一方、知識の活用を問われるB問題において、国語B・算数Bとも平成26年度と比較すると全国、大阪府の平均との差は縮まっているものの、下回る水準で推移しており、活用する力が課題となっています。

理科において、平成30年度は全国、大阪府の平均よりやや下回る結果となっていますが、平成27年度と比較するとその差は縮まっています(図表8)。

【図表8】小学生正答率の推移

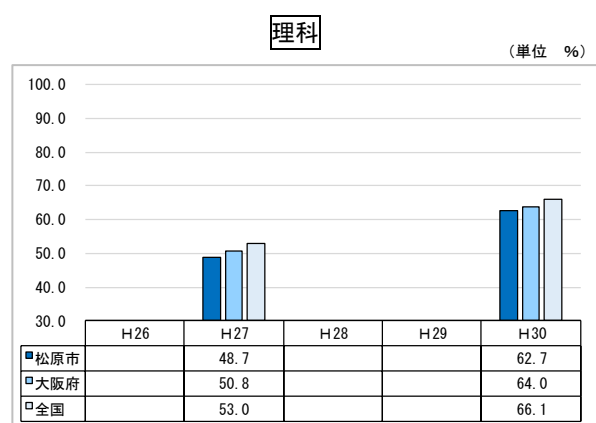
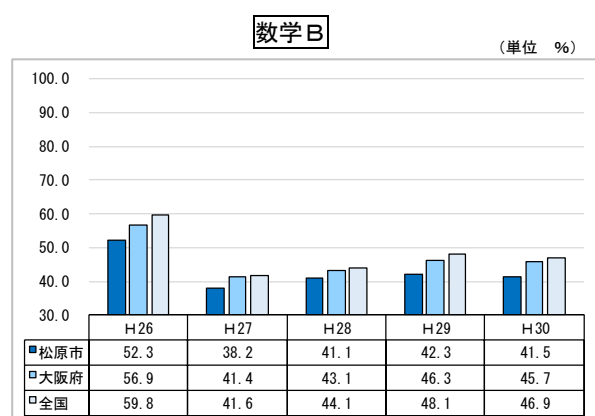
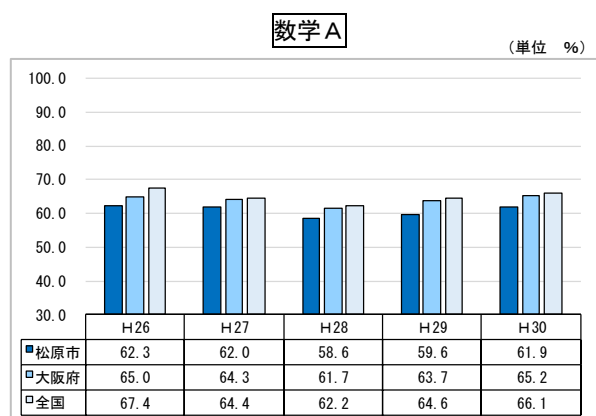
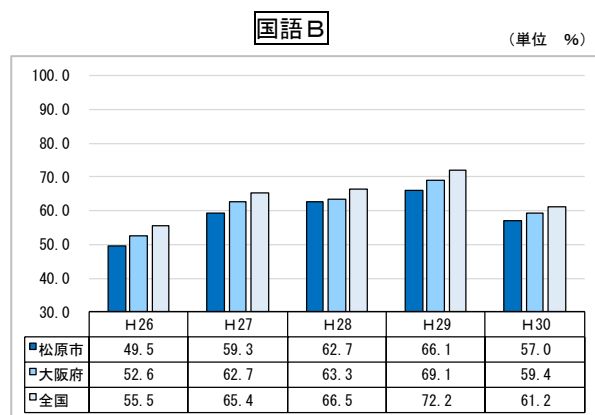
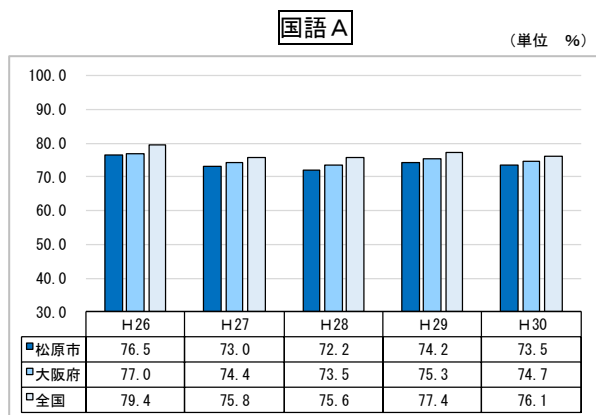


②中学生（3年生）の正答率

国語A・数学Aについて、全国、大阪府の平均よりやや下回る水準となっています。

国語B・数学Bについても、A問題同様に、全国、大阪府の平均をやや下回る水準となっています。中学生の学力向上が課題となっています(図表9)。

【図表9】中学生正答率の推移



③学習状況調査（児童・生徒アンケート（平成30年度））

（i）基本的な生活習慣について

【図表10】基本的な生活習慣等について

（単位 %）

「毎日、同じくらいの時刻に寝る」児童・生徒の割合は、小学校・中学校ともに全国、大阪府を下回っています。「毎日、同じくらいの時刻に起きる」児童・生徒の割合についても、小学校・中学校ともに全国、大阪府を下回っています。

「朝食を毎日食べている」児童・生徒の割合については、小学校では大阪府と同水準となっており、中学校では大阪府をやや上回っています。

「学校の宿題は、毎日している」児童・生徒の割合については、小学校では全国、大阪府を下回っており、中学校では、やや大阪府を上回っていますが、全国を下回っています(図表10)。

		松原市	大阪府	全国
a. 毎日、同じくらいの時刻に寝る	小学校	72.1	73.8	77.0
	中学校	68.4	72.1	74.2
b. 毎日、同じくらいの時刻に起きる	小学校	84.5	86.8	88.8
	中学校	88.3	88.7	90.3
c. 朝食を毎日食べている	小学校	92.9	92.9	94.5
	中学校	89.2	89.0	91.9
d. 学校の宿題は、毎日している	小学校	96.8	97.4	97.1
	中学校	89.0	88.9	91.6
e. 家で学校の予習・復習をしている	小学校	57.9	51.9	62.6
	中学校	44.0	45.5	55.2
f. 今住んでいる地域の行事に参加している	小学校	52.4	51.4	62.7
	中学校	29.2	34.0	45.6
g. 新聞を読んでいる	小学校	11.8	14.6	19.9
	中学校	7.9	11.1	13.9
h. テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）	小学校	83.5	83.5	86.2
	中学校	81.7	82.7	86.6

※a～eは「している」と「どちらかといえば、している」の合計値
 fは「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計値
 gは「ほぼ毎日」と「週に1～3回程度」の合計値
 hは「よく見る」と「時々見る」の合計値

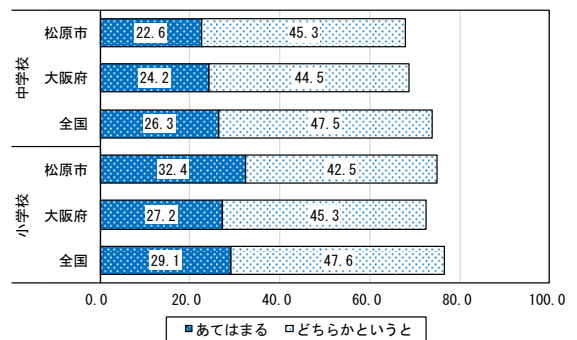
（ii）授業づくりについて

※小学生は5年生までに受けた授業について、中学生は1，2年生のときに受けた授業などについて回答

「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の質問に「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と答えた児童・生徒の割合は、小学校においては大阪府を上回っていますが、中学校においては全国、大阪府を下回っています(図表11)。

【図表11】課題の解決に向けての姿勢

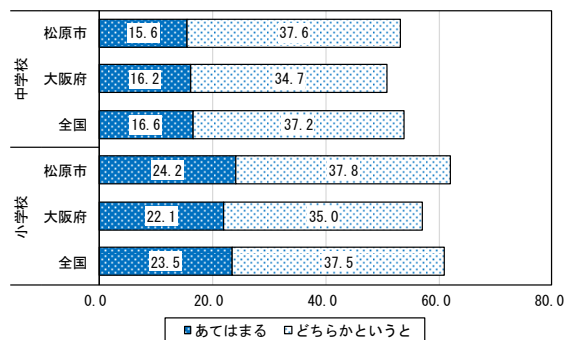
（単位 %）



「自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、工夫して発表していたか」の質問に「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と答えた児童・生徒の割合は、小学校においては全国、大阪府を上回っており、中学校においては大阪府を上回っています(図表12)。

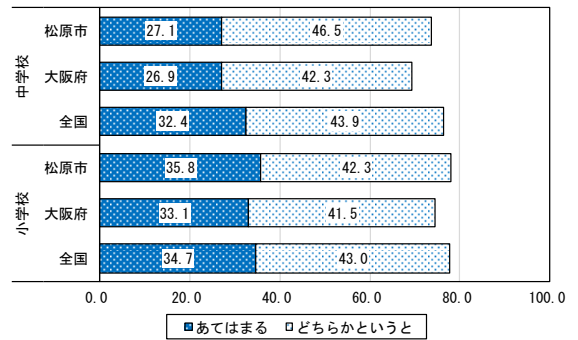
【図表12】発表する機会での工夫

（単位 %）



「学級の（生徒の）間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができていると思うか」の質問に「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童・生徒の割合は、小学校では全国、大阪府を上回っており、中学校では大阪府を上回っています(図表13)。

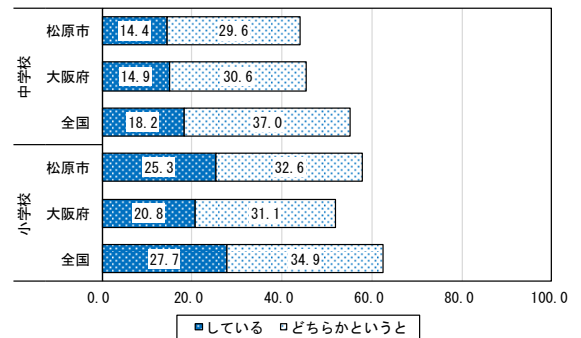
【図表 13】話し合い活動 (単位 %) (単位 %)



(iii) 家庭での学習状況について

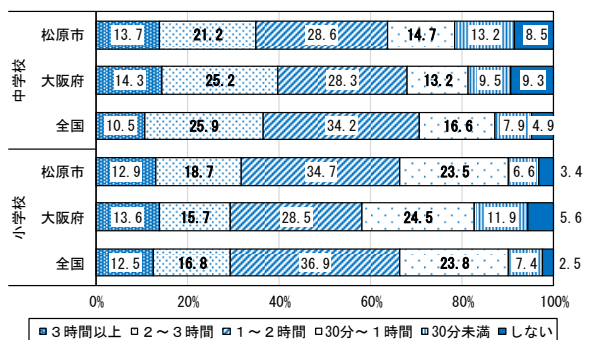
「家で学校の授業の予習・復習をしていますか」の質問に「している」、「どちらかといえば、している」と答えた児童・生徒の割合は、小学校では大阪府を上回っていますが、中学校では全国、大阪府を下回っています(図表14)。

【図表 14】学校の予習・復習 (単位 %)



「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます）の質問に「30分未満」「まったくしない」と答えた児童・生徒の割合は、小学校では全国をやや上回っており、中学校では、全国、大阪府を上回っています。

【図表 15】学校以外での学習時間 (単位 %)



その一方で、3時間以上勉強する児童・生徒の割合は、小学校、中学校ともに全国を上回っています(図表15)。

全国学力・学習状況調査

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

- 小学校及び支援学校小学部6年生・中学校及び支援学校中学部3年生

(3) 調査の内容

○教科に関する調査

- 小学校：国語A・算数A（主として「知識」に関する問題）、国語B・算数B（主として「活用」に関する問題）、理科
- 中学校：国語A・数学A（主として「知識」に関する問題）、国語B・数学B（主として「活用」に関する問題）、理科

※理科は3年に1回実施

○質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

○実施時期

- 例年4月に実施

(4) 小・中学校の体力の状況

(全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から)

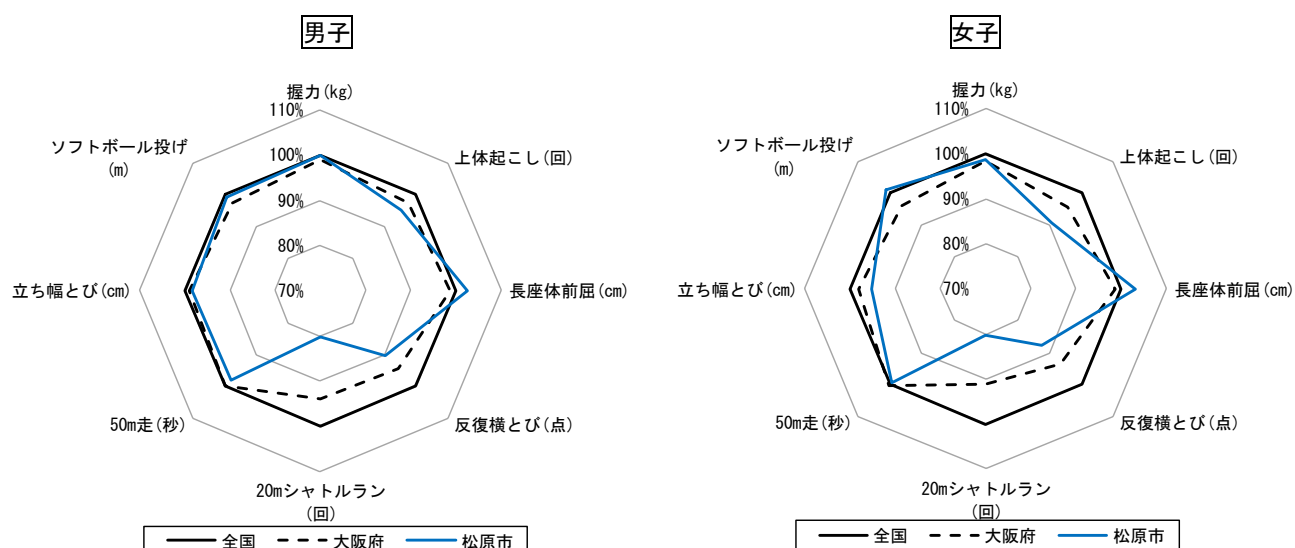
①小学生(5年生)の体力・運動能力

小学生(5年生)の男子の体力・運動能力は、「長座体前屈」「握力」「50m走」では全国、大阪府より上回っています。「ソフトボール投げ」では大阪府より上回っていますが、全国より下回っています。それ以外の項目は全国、大阪府より下回り、最も下回った項目は、「20mシャトルラン」となっています(図表16)。

小学生(5年生)の女子の体力・運動能力は、「長座体前屈」「ソフトボール投げ」「50m走」では全国、大阪府より上回っています。「握力」では大阪府より上回っていますが、全国より下回っています。それ以外の項目は全国、大阪府より下回り、最も下回った項目は、「20mシャトルラン」となっています(図表16)。

体力合計点は、平成27年度から平成29年度まで、男子、女子共に本市の合計点は全国、大阪府より下回っています(図表17)。

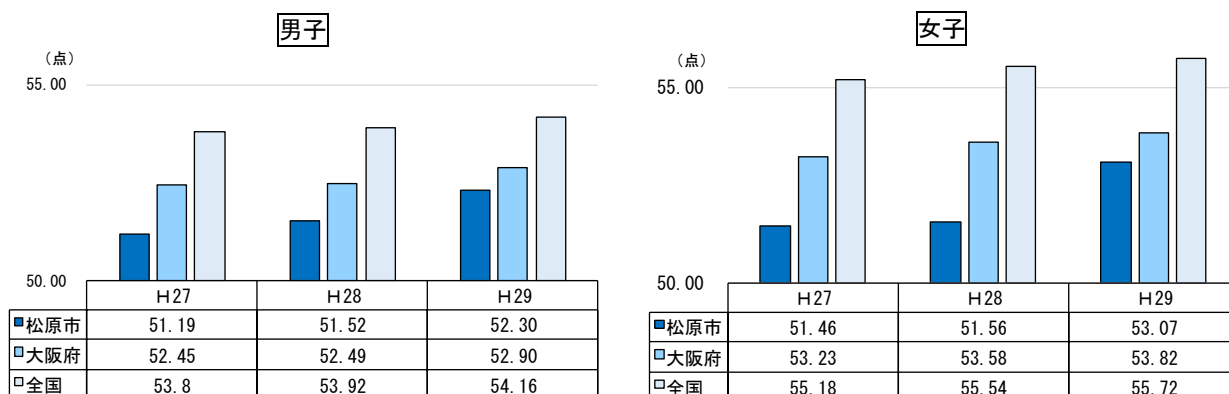
【図表16】小学生 体力・運動能力(平成29年度)



注：全国を100%とした場合の割合

「50m走」については100%未満の場合、全国よりタイムが速いということになる

【図表17】小学生 体力合計点の推移



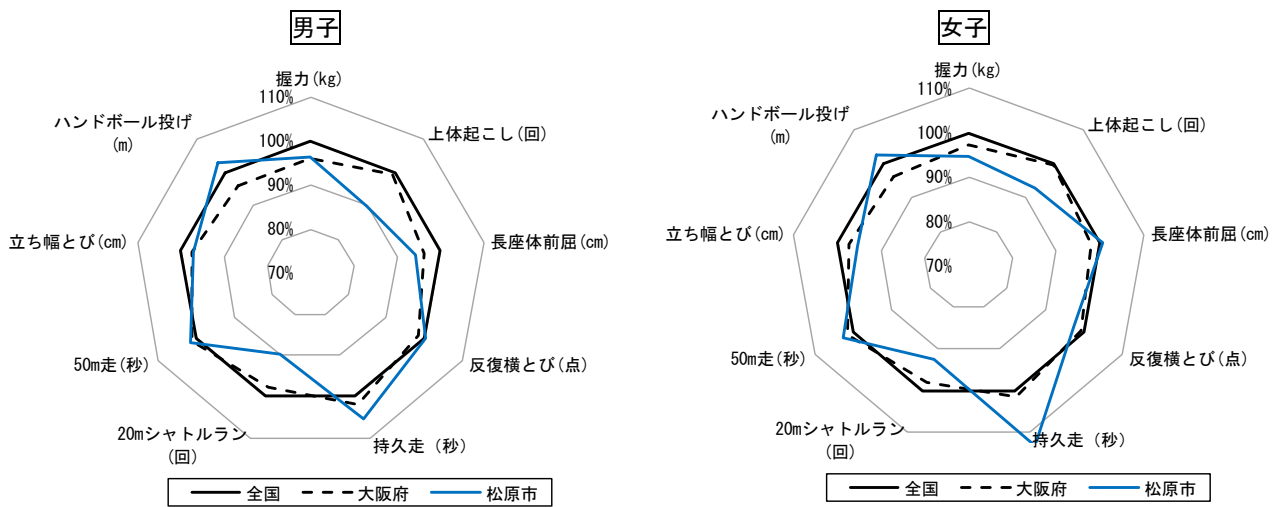
②中学生（２年生）の体力・運動能力

中学生（２年生）の男子の体力・運動能力は、「ハンドボール投げ」「反復横とび」では全国、大阪府より上回っています。「握力」では大阪府より上回っていますが、全国より下回っています。それ以外の項目は全国、大阪府より下回り、最も下回った項目は、「上体起こし」「２０mシャトルラン」となっています(図表18)。

中学生（２年生）の女子の体力・運動能力は、「ハンドボール投げ」「長座体前屈」では全国、大阪府より上回っています。それ以外の項目は全国、大阪府より下回り、最も下回った項目は、「持久走」となっています(図表18)。

体力合計点は、平成２７年度から平成２９年度まで、男子、女子共に本市の合計点は全国、大阪府より下回っています(図表19)。

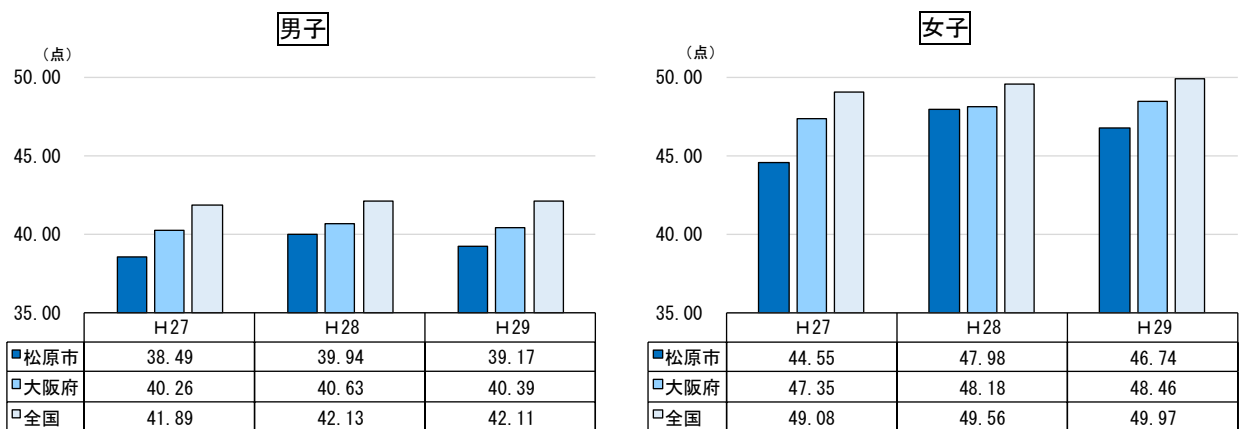
【図表 18】中学生 体力・運動能力（平成 29 年度）



注：全国を100%とした場合の割合

「50m走」「持久走」については100%未満の場合、全国よりタイムが速いということになる

【図表 19】中学生 体力合計点の推移



全国体力・運動能力、運動習慣等調査

■調査の概要

(1) 調査の目的

- 子どもの体力などの状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各国公立学校が各児童・生徒の体力や運動習慣、生活習慣などを把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

(2) 調査の対象

- 小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年
- 中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年

(3) 調査事項

- 小学校調査〔8種目〕
握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20メートルシャトルラン、50メートル走、立ち幅とび、ソフトボール投げ
- 中学校調査〔8種目〕
握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、20メートルシャトルラン、50メートル走、立ち幅とび、ハンドボール投げ（※持久走か20メートルシャトルランのどちらかを選択）

(4) 実施時期

- 例年4～5月に実施

(5) 社会教育施設の状況

① 公民館の利用状況

公民館の利用状況は以下のとおりです。

【図表 20】 公民館の利用状況

(単位 上段：団体 中段：団体 下段：人)

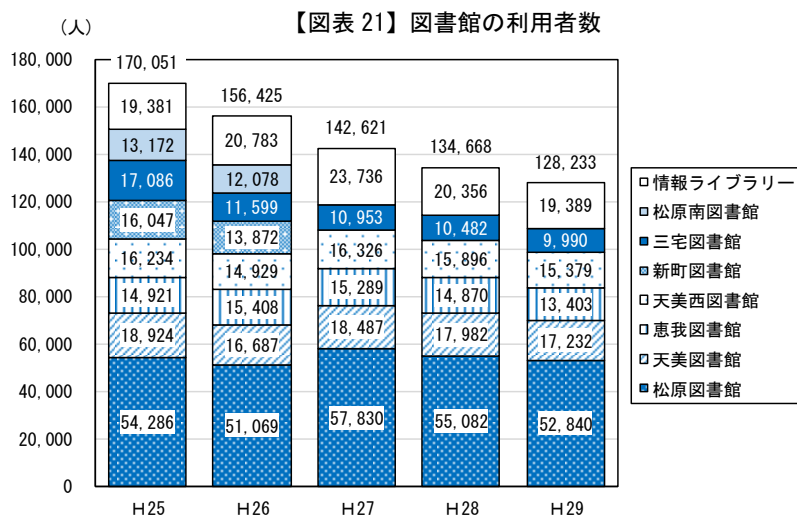
区分		主催事業			公共団体			青少年団体			婦人団体			成人団体			高齢者団体			合計		
		H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29
松原 公民館	実団体数	12	8	7	13	7	8	1	1	2	4	2	2	99	80	81	0	0	0	129	98	100
	延団体数	171	137	101	85	74	64	2	1	2	24	22	14	1,679	1,659	1,472	0	0	0	1,961	1,893	1,653
	延員数	2,025	1,671	1,015	1,879	1,501	1,241	30	3	30	236	159	90	25,272	25,364	22,162	0	0	0	29,442	28,758	24,538
天美 公民館	実団体数	4	2	2	7	8	8	2	2	1	3	3	3	47	41	38	0	0	0	63	56	52
	延団体数	27	20	21	27	37	41	25	25	4	124	130	116	888	888	820	0	0	0	1,091	1,100	1,002
	延員数	269	119	130	581	935	705	145	180	105	848	846	798	9,280	9,694	8,585	0	0	0	11,123	11,774	10,323
三宅 公民館	実団体数	3	2	2	10	9	8	1	0	0	3	1	0	38	39	32	5	5	6	60	56	48
	延団体数	28	12	22	43	41	33	3	0	0	51	43	0	441	443	364	142	148	197	708	687	616
	延員数	250	166	146	2,940	1,890	2,431	20	0	0	950	730	0	6,309	6,560	5,149	2,058	2,089	2,830	12,527	11,435	10,556
新町 公民館	実団体数	4	9	4	5	7	5	1	0	1	2	2	2	34	35	26	0	0	0	46	53	38
	延団体数	7	32	27	49	392	412	1	0	2	25	28	25	454	538	487	0	0	0	536	990	953
	延員数	113	507	475	732	1,836	1,681	5	0	30	217	242	195	7,005	9,253	7,558	0	0	0	8,072	11,838	9,939
中央 公民館	実団体数	3	2	1	3	3	4	0	0	0	2	2	2	43	37	34	1	1	0	52	45	41
	延団体数	5	7	3	51	55	54	0	0	0	123	131	145	597	564	510	6	5	0	782	762	712
	延員数	61	94	40	649	591	569	0	0	0	1,174	1,296	1,445	7,535	7,209	6,359	320	265	0	9,739	9,455	8,413
合計	実団体数	26	23	16	38	34	33	5	3	4	14	10	9	261	232	211	6	6	6	350	308	279
	延団体数	238	208	174	255	599	604	31	26	8	347	354	300	4,059	4,092	3,653	148	153	197	5,078	5,432	4,936
	延員数	2,718	2,557	1,806	6,781	6,753	6,627	200	183	165	3,425	3,273	2,528	55,401	58,080	49,813	2,378	2,354	2,830	70,903	73,260	63,769

資料：市民協働部いきが学習課

② 図書館の利用状況

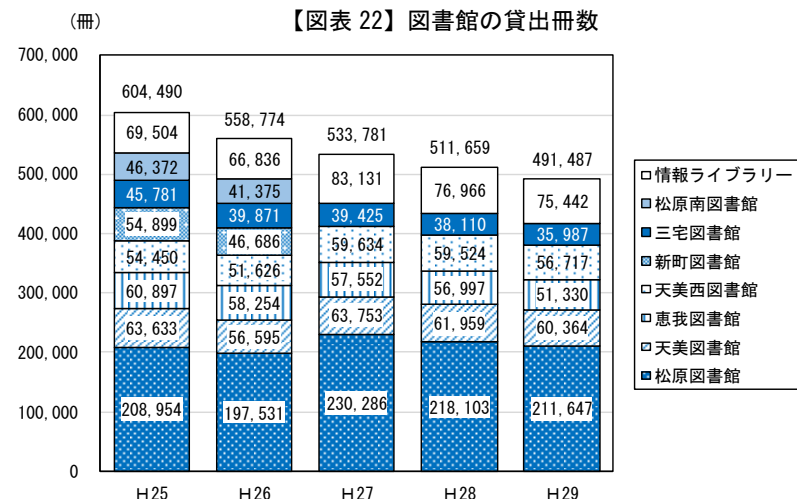
(i) 利用者数

図書館の利用者数は、平成25年の170,051人から平成29年の128,233人に減少しています(図表21)。



(ii) 貸出冊数

図書館の貸出冊数は、平成25年の604,490冊から平成29年の491,487冊に減少しています(図表22)。



資料：市民協働部市民図書館

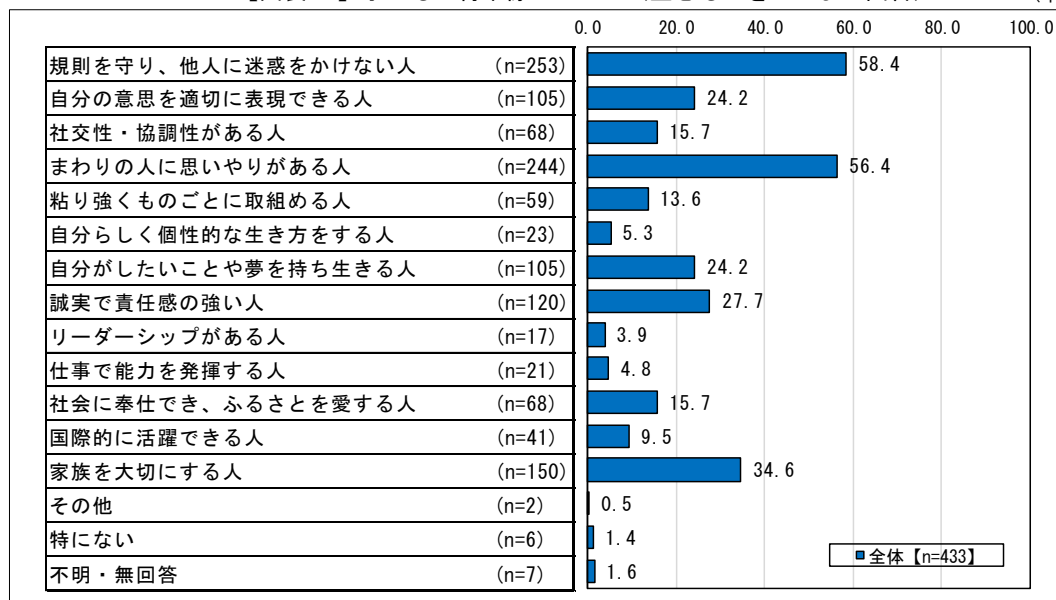
(6) 学校園・家庭・地域の連携

①子どもの将来像

本計画策定のために実施した市民意識調査（19ページ参照）（以下、市民意識調査といいます）の子どもの将来像（どのような子どもになってもらいたいか）についての回答では、「規則を守り、他人に迷惑をかけない人」が58.4%で最も多く、「まわりの人に思いやりがある人」（56.4%）、「家族を大切にする人」（34.6%）がつついています（図表23）。

【図表 23】子どもの将来像について（望むものを3つまで回答）

（単位：%）

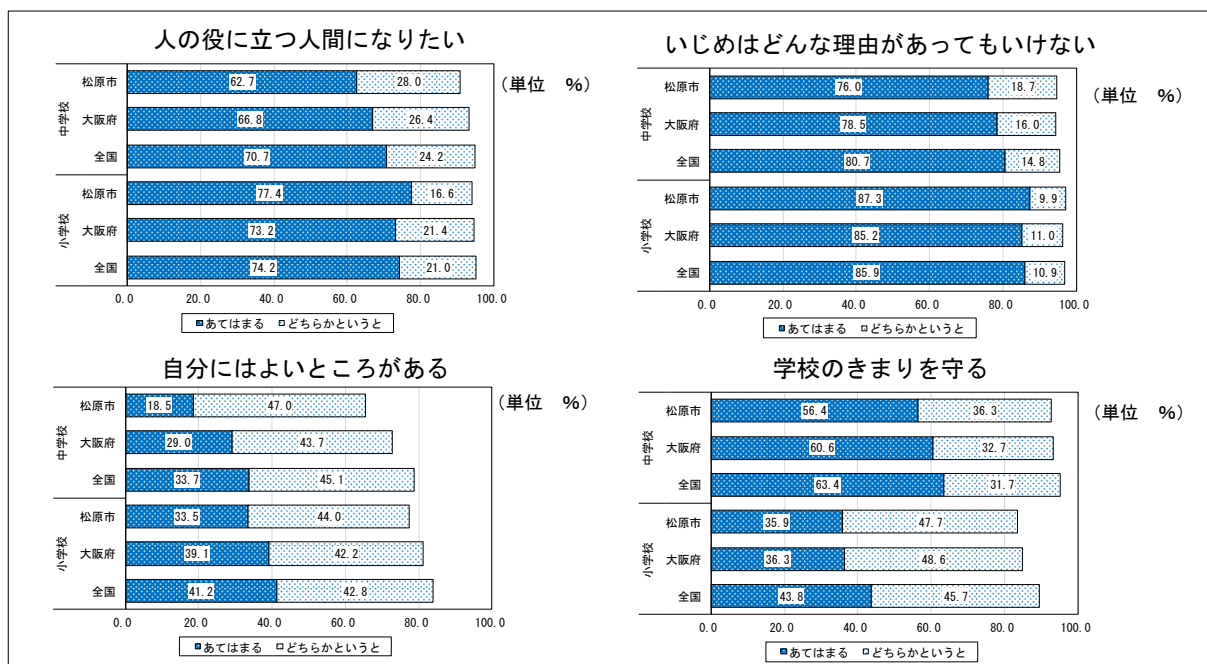


資料：松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査

②自己肯定感や規範意識について

全国学力・学習状況調査（13ページ参照）の際、児童・生徒に実施したアンケートの「自分にはよいところがある」「学校のきまりを守る」の質問で「あてはまる」の回答割合が小学校、中学校ともに全国、大阪府を下回っています（図表24）。

【図表 24】自己肯定感や規範意識について



資料：平成30年度 全国学力・学習状況調査

③学校教育で身につけるべき能力や態度の重要性について

全体では、「善悪を判断する力」が94.0%で最も多く、次いで「言葉遣い、礼節、マナー」が93.1%、「他者に対する理解や優しさ」が92.8%となっています。

年齢別にみると、18歳～29歳では「自分の考えを表現する力」、「善悪を判断する力」、「人間関係を築く力」、30歳代では「自分の考えを表現する力」、65～69歳では「自分の考えを表現する力」、「自分の健康や安全を管理する力」、「善悪を判断する力」、「他者に対する理解と思いやりや優しさ」「生命や自然、環境を大切に作る心」、「基本的な生活習慣」で100%となっています(図表25)。

【図表 25】 学校教育で身につけるべき能力や態度の重要性について
 <年齢別 重要だと思う(「とても重要」+「やや重要」の合計)人の割合>

(単位 %)

	教科の基礎的な学力	自ら学習しようとする意欲	論理的にものを考える力	自分の考えを表現する力	新しいものを生み出す創造的な力	コンピュータを活用する力や情報を管理する力	実際の場面で使える英語などの語学力	音楽・美術などの芸術面の能力や情操	体力や運動能力	自分の健康や安全を管理する力	善悪を判断する力	人間関係を築く力	公共心	社会で役立とうとする心や力	生き方や進路について考える力	強さ	ものごとをやりとげる粘り	郷土や国を愛する心	歴史や伝統、文化についての理解	自立心や自主性、積極性	他者に対する理解と思いやりや優しさ	生命や自然、環境を大切に作る心	言葉遣い、礼節、マナー	基本的な生活習慣	幅広い知識や教養
全体 (n=433)	91.2	92.6	84.8	91.9	85.0	83.6	82.4	63.5	86.1	91.0	94.0	92.4	87.8	89.6	88.7	76.2	75.1	89.6	92.8	90.8	93.1	90.5	83.8		
18歳～29歳 (n=34)	91.2	94.1	94.1	100.0	79.4	91.2	76.5	64.7	85.3	94.1	100.0	100.0	91.2	97.1	94.1	61.8	58.8	97.1	97.1	94.1	97.1	91.2	88.2		
30歳代 (n=48)	97.9	97.9	87.5	100.0	87.5	87.5	85.4	64.6	89.6	97.9	97.9	95.8	87.5	93.8	95.8	70.8	81.3	97.9	95.8	95.8	95.8	93.8	87.5		
40歳代 (n=60)	95.0	96.7	91.7	95.0	88.3	91.7	90.0	70.0	90.0	91.7	96.7	93.3	88.3	93.3	91.7	75.0	76.7	93.3	96.7	93.3	95.0	91.7	81.7		
50歳代 (n=62)	98.4	98.4	88.7	95.2	91.9	88.7	82.3	71.0	90.3	93.5	98.4	98.4	91.9	95.2	95.2	77.4	80.6	93.5	98.4	98.4	96.8	98.4	88.7		
60～64歳 (n=32)	93.5	93.5	87.1	90.3	93.5	87.1	90.3	67.7	80.6	90.3	90.3	93.5	90.3	83.9	87.1	77.4	74.2	83.9	96.8	96.8	93.5	93.5	77.4		
65～69歳 (n=44)	97.7	97.7	88.6	100.0	95.5	86.4	95.5	79.5	93.2	100.0	100.0	97.7	97.7	95.5	93.2	90.9	86.4	95.5	100.0	100.0	97.7	100.0	88.6		
70～74歳 (n=62)	83.9	88.7	72.6	83.9	82.3	75.8	77.4	61.3	80.6	87.1	90.3	87.1	83.9	80.6	82.3	72.6	72.6	83.9	85.5	79.0	90.3	82.3	82.3		
75歳以上 (n=91)	81.3	82.4	78.0	82.4	72.5	72.5	72.5	45.1	81.3	82.4	85.7	83.5	80.2	83.5	79.1	79.1	69.2	80.2	83.5	81.3	85.7	82.4	79.1		

資料：松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査

「松原市教育振興基本計画策定のための」市民意識調査

■調査の概要

(1)調査の目的

○市民の教育や生涯学習、文化・スポーツ(レクリエーション含む)活動などに対する意識を把握し、本計画の策定資料とする。

(2)調査の対象

○平成30年4月1日現在、満18歳以上の市民、1,000人を無作為に抽出。

(3)調査方法

○郵送による配布・回収

(4)調査時期

○平成30年6月1日～6月22日

(5)調査の配布数と回収数

配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
1,000	434	433	43.3%

④力を入れるべき教育施策や教育事業について

全体では、「いじめや不登校等に関する生徒指導の充実」が86.4%で最も多く、「学習意欲が高まる授業づくり」が86.1%、「防災・防犯教育と安心・安全な学校づくり」が85.5%と続いています。

一方で、「授業時間数やテストの回数を増やす」(36.0%)、「放課後や土曜日、夏休みなどに補習事業を増やす」(41.3%)については、低くなっています(図表26)。

【図表 26】力を入れるべき教育施策や教育事業について
 <年齢別 必要だと思う(「とても必要」+「やや必要」の合計)人の割合>

(単位 %)

	市民ボランティアによる授業サポートを増やす	授業時間数やテストの回数を増やす	子どもの学習意欲が高まる授業づくりを工夫する	学、実習など)を増やす	体験的な活動(実験、観察、見	放課後や土曜日、夏休みなどに補習事業を増やす	学校図書室の充実と読書活動を推進する	コンピュータを活用した授業の推進を図る	外国人を活用した英語教育を推進する	小学校と中学校の指導の一貫性を図る	豊かな心をはぐくむ道德教育の充実を図る	いじめや不登校の未然防止に関する生徒指導の充実を図る	悩みがある場合、専門家に気軽に相談できる体制をつくる	進路指導を充実し、将来の職業や生き方について指導する	子どもと教員がじっくり向き合う時間を確保する	ボランティア活動や地域行事への参加の機会を増やす	障害のある子とない子が共に学び、育つ教育を推進する	マラソンなどの体育行事や体力づくりを推進する	防災・防犯教育を充実し、安全な学校づくりを推進
全体 (n=433)	53.6	36.0	86.1	78.5	41.3	71.6	74.6	73.9	63.3	79.7	86.4	84.8	75.1	81.3	63.7	76.4	66.3	85.5	
18歳~29歳 (n=34)	47.1	23.5	97.1	88.2	29.4	79.4	88.2	82.4	58.8	94.1	88.2	91.2	82.4	88.2	76.5	85.3	61.8	97.1	
30歳代 (n=48)	54.2	35.4	93.8	87.5	54.2	77.1	85.4	83.3	68.8	83.3	93.8	91.7	83.3	91.7	70.8	83.3	72.9	93.8	
40歳代 (n=60)	53.3	45.0	90.0	78.3	41.7	75.0	71.7	78.3	73.3	78.3	88.3	88.3	78.3	80.0	63.3	73.3	63.3	91.7	
50歳代 (n=62)	54.8	33.9	91.9	85.5	38.7	77.4	82.3	75.8	59.7	82.3	91.9	91.9	79.0	87.1	71.0	79.0	71.0	90.3	
60~64歳 (n=32)	64.5	45.2	87.1	80.6	54.8	77.4	80.6	77.4	58.1	80.6	87.1	87.1	64.5	83.9	77.4	80.6	67.7	87.1	
65~69歳 (n=44)	61.4	22.7	97.7	90.9	36.4	81.8	75.0	81.8	75.0	86.4	93.2	90.9	81.8	79.5	68.2	86.4	68.2	88.6	
70~74歳 (n=62)	53.2	40.3	82.3	77.4	43.5	59.7	69.4	67.7	66.1	75.8	80.6	75.8	72.6	79.0	56.5	72.6	69.4	75.8	
75歳以上 (n=91)	47.3	36.3	68.1	59.3	36.3	60.4	61.5	60.4	51.6	70.3	76.9	73.6	64.8	71.4	48.4	65.9	59.3	73.6	

資料：松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査

⑤家庭・地域の教育力

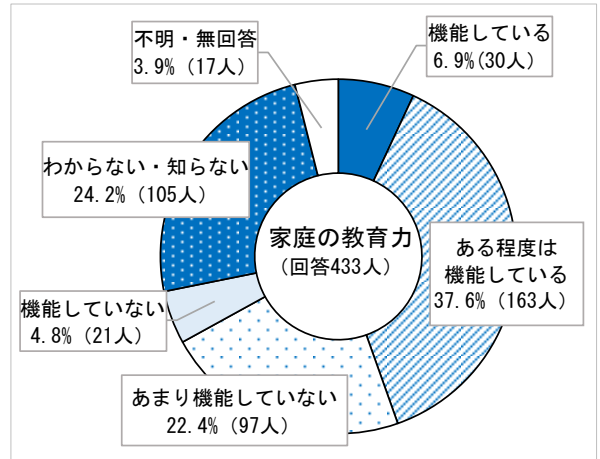
家庭の教育力(家庭で、親が子に対して行う教育)について、機能していると回答した人(「機能している」と「ある程度機能している」の合計)は44.5%、機能していないと回答した人(「あまり機能していない」と「機能していない」の合計)は27.2%となっており、「機能している」が「機能していない」を上回っています。

年齢別でみると、18歳から64歳では、機能していると回答した人が45%以上となっていますが、65歳以上では40%以下となっています(図表27)。

【図表 27】 家庭の教育力

(単位 上段：人 下段：%)

		機能している	ある程度は機能している	あまり機能していない	機能していない	わからない・知らない	不明・無回答
年齢別	18歳～29歳 (n=34)	4	16	4	2	8	0
		11.8	47.1	11.8	5.9	23.5	0.0
	30歳代 (n=48)	3	25	15	1	4	0
		6.3	52.1	31.3	2.1	8.3	0.0
	40歳代 (n=60)	4	26	13	5	10	2
		6.7	43.3	21.7	8.3	16.7	3.3
	50歳代 (n=62)	5	25	11	3	17	1
		8.1	40.3	17.7	4.8	27.4	1.6
	60～64歳 (n=32)	1	15	9	1	5	0
	3.2	48.4	29.0	3.2	16.1	0.0	
65～69歳 (n=44)	4	11	12	3	13	1	
	9.1	25.0	27.3	6.8	29.5	2.3	
70～74歳 (n=62)	5	17	11	5	21	3	
	8.1	27.4	17.7	8.1	33.9	4.8	
75歳以上 (n=91)	3	28	22	1	27	10	
	3.3	30.8	24.2	1.1	29.7	11.0	



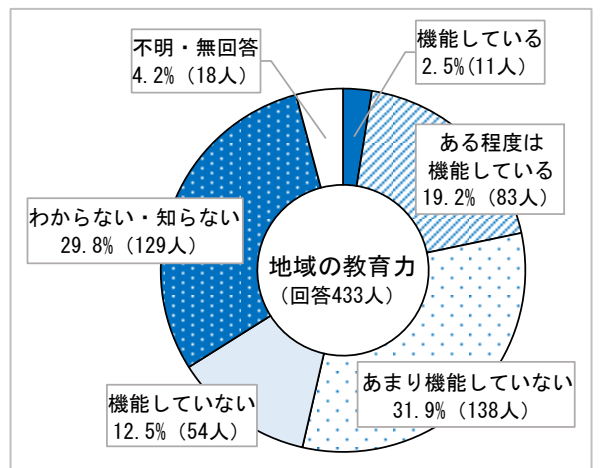
資料：松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査

地域の教育力(地域社会の中で子どもたちが大人や異なる年齢の友人たちとの交流を通じたさまざまな体験などができる教育機能のこと)について、機能していると回答した人(「機能している」と「ある程度機能している」の合計)は21.7%、機能していないと回答した人(「あまり機能していない」と「機能していない」の合計)は44.4%となっており、「機能していない」が「機能している」を上回っています(図表28)。

【図表 28】 地域の教育力

(単位 上段：人 下段：%)

		機能している	ある程度は機能している	あまり機能していない	機能していない	わからない・知らない	不明・無回答
年齢別	18歳～29歳 (n=34)	1	7	12	4	10	0
		2.9	20.6	35.3	11.8	29.4	0.0
	30歳代 (n=48)	2	14	17	6	9	0
		4.2	29.2	35.4	12.5	18.8	0.0
	40歳代 (n=60)	3	15	22	6	12	2
		5.0	25.0	36.7	10.0	20.0	3.3
	50歳代 (n=62)	1	13	19	13	16	0
		1.6	21.0	30.6	21.0	25.8	0.0
	60～64歳 (n=32)	2	4	11	6	8	0
	6.5	12.9	35.5	19.4	25.8	0.0	
65～69歳 (n=44)	0	7	15	6	15	1	
	0.0	15.9	34.1	13.6	34.1	2.3	
70～74歳 (n=62)	2	5	16	8	27	4	
	3.2	8.1	25.8	12.9	43.5	6.5	
75歳以上 (n=91)	0	17	26	5	32	11	
	0.0	18.7	28.6	5.5	35.2	12.1	



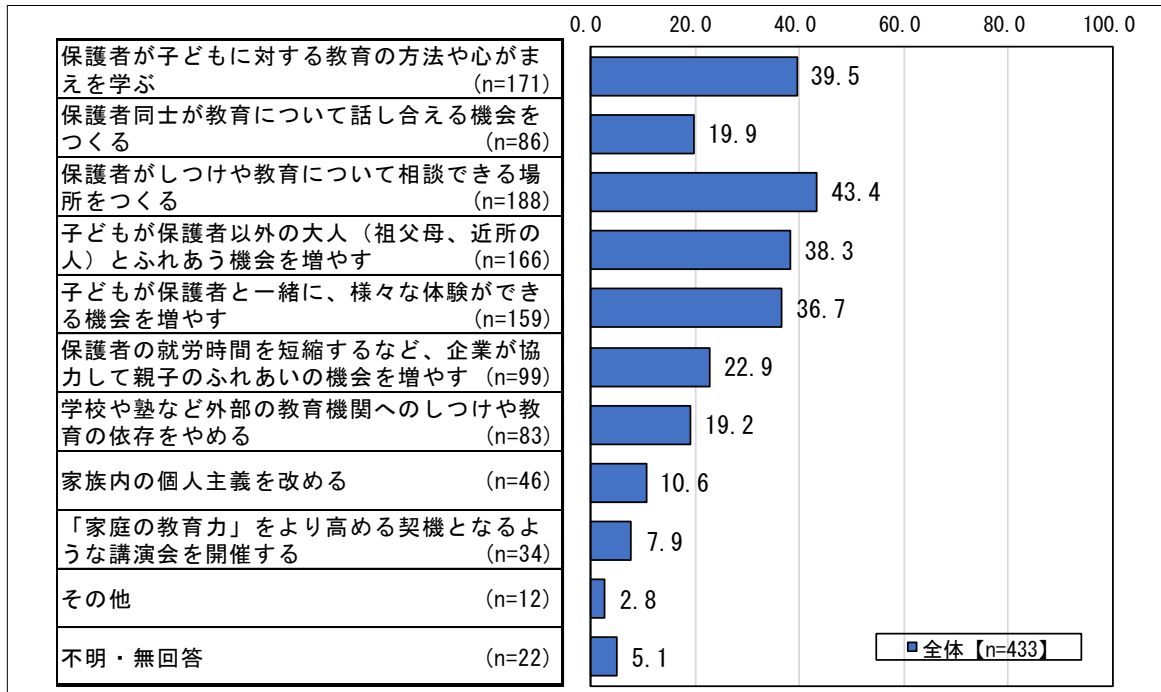
資料：松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査

⑥家庭の教育力を高めるために必要な取組み

家庭の教育力を高めるために必要な取組みについて、「保護者がしつけや教育について相談できる場所をつくる」が43.4%で最も多く、「保護者が子どもに対する教育の方法や心がまえを学ぶ」が39.5%、「子どもが保護者以外の大人（祖父母、近所の人）とふれあう機会を増やす」が38.3%と続いています（図表29）。

【図表 29】 家庭の教育力を高めるために必要な取組み（望むものを3つまで回答）

（単位 %）



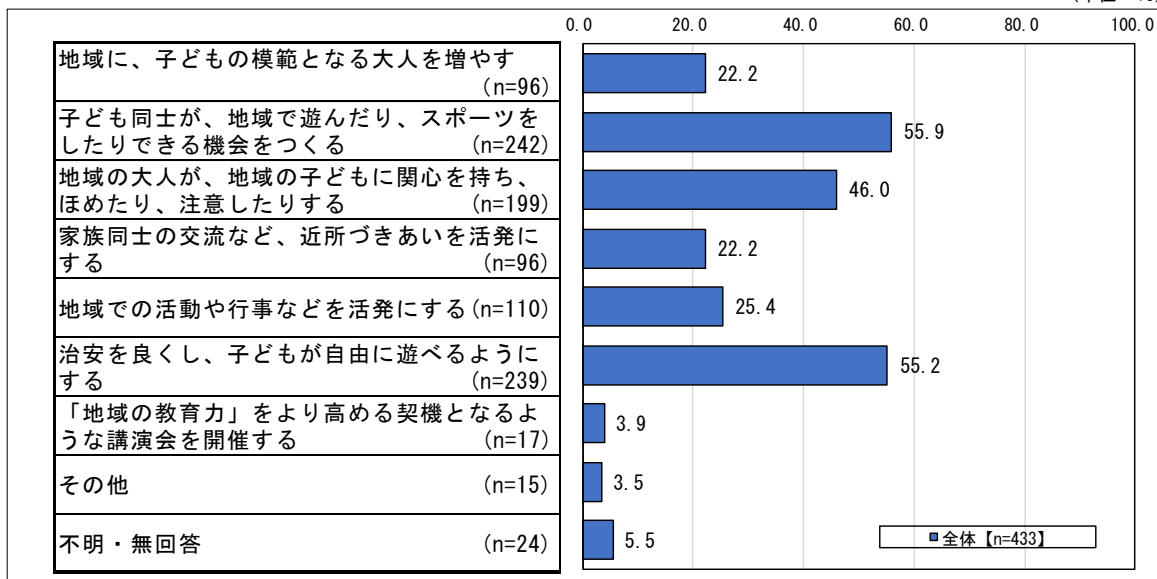
資料：松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査

⑦地域の教育力を高めるために必要な取組み

地域の教育力を高めるために必要な取組みについて、「子ども同士が、地域で遊んだり、スポーツをしたりできる機会をつくる」が55.9%で最も多く、「治安を良くし、子どもが自由に遊べるようにする」が55.2%、「地域の大人が、地域の子どもの関心を持ち、ほめたり、注意したりする」が46.0%と続いています（図表30）。

【図表 30】 地域の教育力を高めるために必要な取組み（望むものを3つまで回答）

（単位 %）



資料：松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査

(7) 生涯学習・スポーツの状況

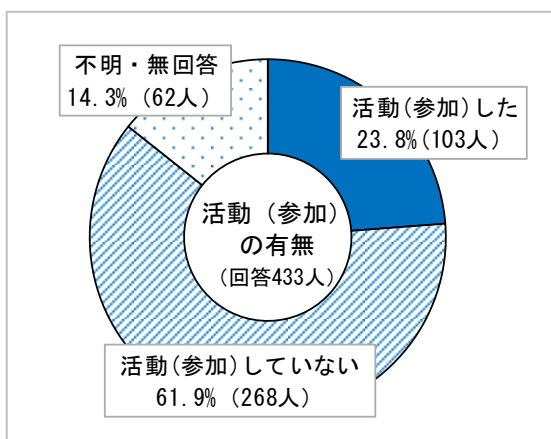
① 趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、陶芸など）

◆この1年の活動や参加の有無と今後の活動意向

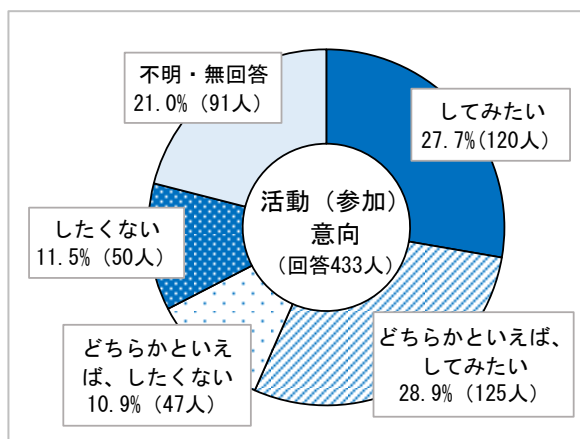
この1年間の活動や参加の有無について、「活動（参加）した」が23.8%、「活動（参加）していない」が61.9%となっており、「活動（参加）していない」が上回っています（図表31）。

一方で、今後の活動意向については、「活動してみたい（「してみたい」と「どちらかといえば、してみたい」の合計）」が56.6%、「活動したくない（「したくない」と「どちらかといえば、したくない」の合計）」が22.4%となっており、「活動してみたい」が上回っています（図表32）。

【図表 31】 この1年間の活動や参加の有無



【図表 32】 今後の活動（参加）意向



資料：松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査

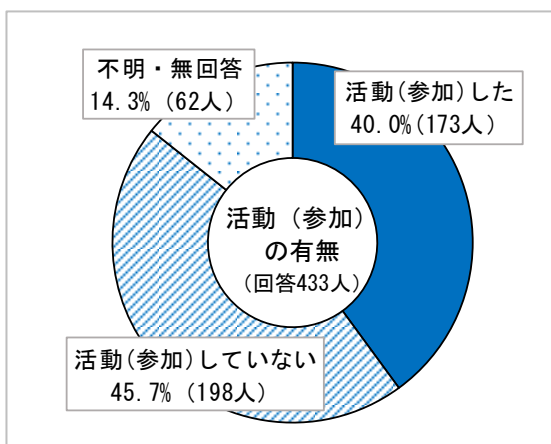
② 健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、ウォーキング、水泳など）

◆この1年の活動や参加の有無と今後の活動意向

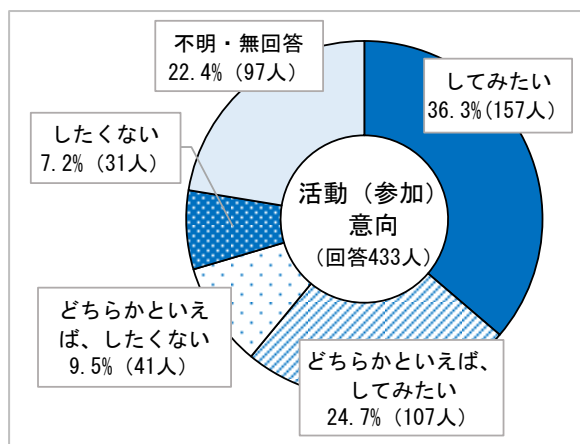
この1年間の活動や参加の有無について、「活動（参加）した」が40.0%、「活動（参加）していない」が45.7%となっており、「活動（参加）していない」が上回っています（図表33）。

一方で、今後の活動意向については、「活動してみたい（「してみたい」と「どちらかといえば、してみたい」の合計）」が61.0%、「活動したくない（「したくない」と「どちらかといえば、したくない」の合計）」が16.7%となっており、「活動してみたい」が上回っています（図表34）。

【図表 33】 この1年間の活動や参加の有無



【図表 34】 今後の活動（参加）意向



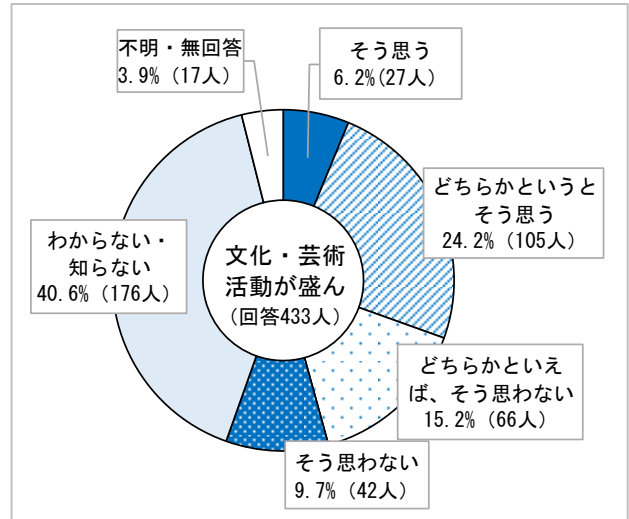
資料：松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査

③市民による文化・芸術活動

市民による文化・芸術活動が盛んであるかについて、「そう思う（「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計）」が30.4%、「そう思わない（「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」の合計）」が23.4%となっており、「そう思う」が上回っています。

また、「わからない・知らない」の割合も多くなっています(図表35)。

【図表 35】 市民による文化・芸術活動



資料：松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査

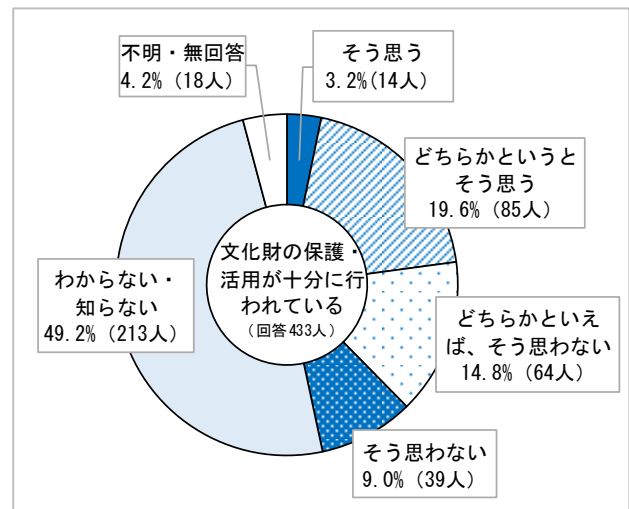
(8) 歴史・文化

①文化財の保護・活用

文化財の保護・活用が十分に行われているかについて、「そう思う（「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計）」が22.8%、「そう思わない（「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」の合計）」が23.8%となっており、「そう思わない」が上回っています。

また、「わからない・知らない」の割合は、49.2%と、半数近くになっています(図表36)。

【図表 36】 文化財の保護・活用について



資料：松原市教育振興基本計画策定のための市民意識調査